

3月にかけて性器出血，Friedman 反応陽性により，36年10月子宮単純全別術施行，同11月 Friedman 反応なお200KE(+)，右下肺野に異常陰影を発見，同11月末右肺中・下葉合併切除術施行，術前後にマーフィリン25mg×15回の化学療法を加えた。以降現在迄約4年間 Friedman 反応は単に陰性で再発の兆は全くない。これは術後長期生存しており，比較的稀な症例といえる。なお本例の組織像は chorionepithelioma であった。第2例は31才，昭和32年正常分娩，奇胎の既往はない。39年6月発熱，咳，血痰，血沈促進等により胸部X線写真を撮り，左下肺野に円形でかなり大きい異常陰影を発見され，肺結核の診断の下に3者併用療法を受けていた。同8月 Friedman 反応200KE(+)より痰毛性腫瘍の肺転移と診断，同9月左肺下葉切除術を施行したが組織像は chorionepithelioma であった。同10月子宮単純全別術を施行，この子宮を病理組織学的に精索したが，絨毛性腫瘍組織は全くなく異所絨毛上皮腫 heterotopic chorionepithelioma と診断した。なお術後にメソトレキセート計160mgの投与を受けた。本例は術後約1年1ヶ月の今日 Friedman 反応陰性で再発の兆は全くない。この例も稀なものといえる。

絨毛性腫瘍肺転移巣の切除はまだ歴史も比較的浅く，適応については議論が多い。その根拠とするところは，多発性のものが多いこと，X線写真に出ない顕微鏡的転移巣があり得ること，手術が腫瘍細胞の血中遊走を促す危険があること等々である。しかし両肺の断層撮影を精密に行い，一側肺に限局した結節型の病巣を認めたならば肺切除を施行し，これに化学療法を加えるのがよいと考える。症例によってはかなりの好成績が得られる。これに対して，両側肺に病巣のあるものは手術の適応でないことは申す迄もない。この他にびまん性の陰影を広範囲にわたって示すものは血管内に腫瘍組織栓子がつまっている様な変化をとっていることが多いので肺切除よりも化学療法の方が適応と考える。

附議 金子 仁 (東一病理)：1) 表の中で胎状鬼胎を ausklätzen したとおかきになっておられますがこれは malignant の処はなく全く benign のものだったのででしょうか。

2) 肺切除と前後して子宮を摘出しておられますがこの子宮の組織像はいかがでしょう。

遠山 博 (群馬大学第1外科)：1) chorionepithelioma と申し上げたのは約2年前，日本産婦人科

学会絨毛委員会に於いて，choriocarcinoma を chorionepithelioma と統一的に呼ぶという決定に基いたものであります。従って現在では chorionepithelioma の中に chorioadenoma は含んでいません。私共の11例では全部が以前 choriocarcinoma といったものにあたります。

2) 子宮全別を施行した例の子宮には全例 chorionepithelioma の組織が証明されました。但し異所性肺絨毛上皮腫と考えた1例の子宮には組織学的変化を全く認めませんでした。

VI-11 転移性肺癌の統計的観察及びLDHアイソザイムについて：筈島四郎，小森宗次郎，綿田紀孝，原 耕平，中野正心 (長大筈島内科)，早川 澁 (原医研病理)

我々の教室に最近5年間に入院した悪性腫瘍は，丁度240例で，肺・胃・肝の順であった。このうち剖検しえたものは82例で，その46.3%に肺転移を認めた。

原発臓器別では，実数としては肝癌が最も多かったが，転移率では，腎・肺 (反対側以上への転移) 肝の順であった。

死亡前2カ月までのX線で，有所見者は30例(81%)で，そのX線的分類では肺野腫瘍型が最も多く，左右いづれか1側が22例(66.6%)であった。これを肺を除いた原発臓器別にみると，少数例のためか特異性は見出し難く，X線像から原発臓器の推定は困難である。

自覚症状では，咳・喀痰・胸痛などで特別なものはない。

検査成績では，時期にもよるが，血沈の促進(1時間30mm以上)，ムコプロテインの増加(15mg%以上)を示すものが多く，白血球数10,000以上を算えるものが，かなり認められた。血清のLDHの増量も大半に認めた。

喀痰の細胞診は，原発性肺癌に比し低率であった。

化学療法の効果は，認めえないものが多かった。

悪性腫瘍のLDHアイソザイムについては，その特異性，発母組織との類似性，その血清への反映など種々論議されている。

我々が行った，ラットを用いての実験的肺腫瘍では，移植癌組織LDHアイソザイムの血清への反映が認められた。

剖検によって確認した肝癌の肺転移7症例で，生前の血清，剖検時の転移巣，原発巣のLDHアイソザイ

ムを測定した。

転移巣では LD_i にピークを示すものが多く、そのパターンは原発巣に似ており、原発性肺癌組織のパターンとは異っている。然し血清では、肝癌の肺転移と原発性肺癌ではあり差がみられず、我々が望む LDH アイソザイムパターンから原発臓器を推定することは、困難なように思われる。

VI-12 転移性肺腫瘍の化学療法：仁井谷久暢，桂敏樹，鈴木 明，金上晴夫，木村禧代二，石川七郎（国立がんセンター）

肺転移を来した症例中，化学療法単独施行 100 例について検討を行った。1 回以上，行われたものも含めて延施行例 137 例で，全身投与の行われたもの 125 例，胸部大動脈遮断による上半身インフュージョンあるいは気管支動脈よりの局所投与の行なわれたものは 12 例である。原発腫瘍は肺癌 18，乳癌 13，子宮癌 8，直腸癌 7，骨肉腫 6，腎腫瘍 6，胃癌 5 その他である。効果の判定として生存率に及ぼす影響については，未だ原発腫瘍別に論じ得る程，症例数がないので，X線像の変化のみについて行った。即ち判定基準は(1)著効： $\frac{2}{3}$ 以上の病影に縮少，消褪が認められたもの，(2)有効： $\frac{1}{2}$ 以上の病影に縮少，消褪が認められたもの，(3)やや有効：一部の病影に縮少，消褪が認められたもの，(4)無効：治療前後に病影の変化なきものも含め，その他を無効とした。全身投与群では著効，有効は約 9%，やや有効例を含めると約 18%，局所投与群では 12 例中 2 例に著効，1 例にやや有効がみられた。さらに肺転移病像を結節型，胸水型，リンパ管炎型，その他に分類し，病型と化療効果について検討を行った。

主として肺野円形陰影を呈したものは結節型とし，個々の陰影のうち最大径が 1 cm 以下のものを小結節型 1 cm 以上のものを大結節型とし，さらに病影の拡りの大きさを肺結核の学研分類に従って I，II，III とした。

癌性リンパ管炎を疑はしめる，線維性線状学状影を示したものはリンパ管炎型とし，その拡りの大きさを I，II，III とした。

小結節型，拡り I のものに，もっとも高い効果が認められ，8 例中著効，有効は 3 例，やや有効を含めると 50% の有効率を示した。しかし病影の大きさ，拡りが大きくなるにつれて，その化療効果は減少し，大結節型のうち最大径 3 cm 以上のものは拡りの如何にかかわらず 30 例中やや有効 3 例を認めたに過ぎない。又，

病影の拡りのみについて検討すると拡り I では著効，有効例は 16%，やや有効例を含めると 24% に対して，さらに進んだ拡り II ではやや有効例を含めて 14% に過ぎない。局所投与例については，まだ例数も少ないが，やや有効例も含めて，全身投与の場合に比べ，比較的大きな病影にも効果の認められた場合があり，やや有効例を含め 25% と高い効果が得られている。

いずれにせよ，すぐれた効果は病影の小さな，拡りの進んでいない例に多く認められている。以上の成績に加えて，全身および局所投与による有効例をスライドによって示した。

VI-13 肺癌と脳転移：猪口嘉三，笹富公夫，田尻進（久留米大学医学部脇坂外科）

腹部内臓及び四肢の悪性腫瘍に較べ，汙器をもたない癌腫と云われる肺癌では遠隔転移が一つの特色でもあります。

一般に，転移があれば，すでに希望のないものと断定されるのが通念でありましようが，近時脳転移巣に対し積極的な外来的療法が一部で試みられています。

吾々の経験した肺癌の脳転移症例にも，肺症状の少い，いわゆる Silent phase に近いもので，転移巣の脳症状がむしろ著明なものがまみられました。この様な症例に際しこの転移巣に対して如何様に対処すべきかを痛感し，外科的治療の意義と可能性について剖検例を中心に，いささかの調査検討及び考察を加えてみました。以下，私見を述べてみたいと思います。

まず，肺癌の脳転移頻度ですが，諸家の報告共，20～30%前後で，吾々の症例でも同様に 21.9% でありました。この中には，肺癌の極めて早期のものも含まれており，遠隔転移，脳転移を注意しなければならないと云う事を痛感致します。

次に，脳転移を来し易い疾患はどの様なものであるかを Henke-Lubarsch 等の 1,542 例に及ぶ集計よりみてみますと，肺癌，乳癌が圧倒的に多く，両者併して全体の約半数近くを占める事が解ります。吾々の症例集計でもほぼ同様の事が云えます。即ち，転移性脳腫瘍の原発巣としては肺癌及び乳癌を泌尿生殖器系の腫瘍と共に，常に念頭におくべきである，と云う事があります。

この事は又，逆に脳腫瘍を疑う際には肺陰影検討の必要性を暗示するものと云えましよう。

次に，転移性脳腫瘍の外科的治療に当って問題となる点は転移部位が脳の，どの様な場所にみられるかと